

さろんから地域力を高められるようエールを送りたい ～いつかは誰もが認知症、袖すりあうのも何かの縁だよ～

栃木県認知症介護指導者 染谷 久美子

キーワード: カラオケ屋代わりの拠り所
一般介護予防事業 スタッフか参加者か
「認知症の人」も地域で活躍する人に

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

社会福祉法人の介護福祉施設の地域貢献をうたい、チームオレンジの一員としても地域包括ケアシステムの一役を担うことを理想としたサロン活動です。認知症の方との接し方を施設ケアで培った知見を地域に還元していくことと、一般介護予防事業にも参入し地域住民にフロアを開放していきたいと考えました。

【活動内容】

気軽に集える高齢者・認知症の方のサロンとして毎月曜 10 時～12 時に開催し、スタッフボランティアが居て「手作りおやつ」にこだわる。近隣の障がい者施設のパン工房を呼べる午後は自主活動の形をとる。他は一般相談受入れ、また地域住民に開放していく。毎月地域住民向け回覧チラシを約 800 班分作り、認知症に関する知識や活動予定をのせてPRしていきます。

・歌に合わせた筋トレ体操から始め、カラオケ・囲碁・将棋・麻雀は未経験者には手解きをするサロンであること、おしゃべりしながら過ごすカフェであり、認知症カフェでありケアラズ(介護者)カフェとしました。

活動のきっかけ、背景(指導者として・ボランティア-が-経験豊富な運営担当としての立場で)

中学校区に一つのまさに「今日行くと今日用(きょういくときょうよう)」の介護予防事業や、地域に密着した認知症サロン活動が出来ないか模索しました。認知症の人もスタッフになれるサロンを作りたいと計画していたところ、カラオケ屋が閉店し楽しみが減り行くところがない、市民センターの囲碁将棋には初心者は入りづらいという声を聴いた。

活動の経過と成果

【活動の経過】

老人福祉法介護支援センターの相談窓口機能を残したサロンとして名乗りを上げ、年齢を問わず気軽に集える認知症の方の集えるサロンをつくることとした。

【活動の成果】

「ほのかさろん」への問い合わせや相談の中には、認知症の進行が早く介護サービス拒否が強く家族だけではどうしてもできなかったケースがいくつもありました。サロンに慣れ、施設を覗き抵抗感が薄れ、介護サービスにつながりサロンを卒業した方もおり、介護保険を卒業して包括に紹介されて参加されるようになった方もおります。利用者扱いが嫌と働きたいと来た若年認知症の方もスタッフボランティアとして活動していることについても、役割意識をもって、他のボランティアと分け隔てなく活動し、参加者もボランティアも認知症があっても通える楽しめる場を提供しています。市担当者にとっても認知症の方をスタッフにすることが出来るサロンがある、ということは評価にも値し、他市の認知症地域支援推進員の方の見学受け入れ(スタッフとして働いて頂く)をしていく。実会員 101 名のべ 2119 名(R2.2 月現在)

今後の展望

当法人では、非営利事業であり、介護保険とは関係なく、採算がとれる事業ではありませんが、認知症その他の専門知識を持つ職員がスタッフとしていること、認知症の人の「役に立ちたい」に応じられるサロンを目指したいです。有償ボランティア報酬額や短時間パート職員などの準備があり、働ける認知症の方も受け入れることも検討中です。白タク行為が緩和されているので、買い物ツアーやサービス事業所のようにドアツードアではありませんが送迎サービスも計画中です。